

# 第19回肝臓病教室

このたび、第19回肝臓病教室が平成27年11月30日に開催されました。今回も18名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは、「C型肝炎」です。

まず、田中医師より「C型肝炎の最新治療」について講演がなされました。

日本人のC型肝炎のジェノタイプには、1b（インターフェロンが効きにくい）70%、2a（インターフェロンが効きやすい）20%と2b（インターフェロンが効きやすい）10%があります。インターフェロン治療の利点は、肝がんの抑制効果が証明されており、耐性変異の問題がありません。問題点はジェノタイプ1bには効きにくいことと副作用が強く治療期間が長いことです。それに対しHCV直接阻害剤（DAAs）は飲み薬であり、副作用が少なく治療期間も短く、治療効果が高いものです。問題点は耐性変異には注意が必要で、肝がんの抑制効果が未知であります。また飲み忘れず、きちんと服用することが重要です。



続いて、森山臨床検査技師より「腹部エコーで診るーC型肝炎ー」について講演がなされました。C型肝炎のエコー検査で重要なことは、肝がんの早期発見及び肝臓の線維化の程度を知ることです。線維化が進むと、肝臓が硬くなり肝硬変になる可能性があります。エコー検査は、人の耳には聞こえない音を利用して体の組織にぶつかって跳ね返ってきたこだまを画像として映し出す検査です。レントゲンやCTのように被爆の心配がありません。またお腹にゼリーをぬって機械を当てるため痛みもありません。当院のエコー室には腹部超音波認定検査技師が7名おり、日々技術を磨いています。



続いて、北田薬剤師より「今知っておきたい最新治療の注意点と副作用」について講演がなされました。

ジェノタイプ1型にはハーボニー配合剤を使用した治療を行います。C型慢性肝炎またはC型代償性肝硬変に適応であり非代償性肝硬変や腎臓の悪い人には適応しません。1日1回、12週間服用します。ジェノタイプ2型にはソバルディ+リバビリン併用療法を使用して治療します。ソバルディは1日1回、リバビリンは1日2回朝、夕食後どちらとも12週間服用します。リバビリンは次回服用まで3時間以上間隔がある場合は気づいた時に服用します。可能であれば服用前に食事を摂取してください。また相互作用の注意が必要です。



続いて、野坂管理栄養士より「ウイルス消失後の食事療法」について講演がなされました。治療によりウイルスが消失すると、その後食欲が増し、たくさん食べてしまうことがあります。しかし、運動量が増えず、少ないままだと肥満、脂肪肝、糖尿病になる可能性が増えていきます。やせ体質になるには規則正しい生活、適度な運動に加え、身体活動量にあった食事が必要になります。高カロリー食品には注意し、腹八分目にして食べた分だけ動くようにしましょう。



当院では、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。

